

総社市立阿曾小学校

児童生徒数 130名 ・学級数 7学級 ・教職員数 13名（平成26年7月1日現在）

○取組実践のキーワード

基礎的な知識・技能の習得

○標題（研究主題）

学びの基礎力を高め、基礎・基本の定着を図る指導法の工夫

○取組を始めた経緯

学習の基礎となる学習規律や家庭学習の力を高めることを通して、児童一人一人に基礎・基本をより確実に定着させるために、指導内容や指導方法を工夫したいと考え取組を始めた。

○取組の実施体制

昨年度は、魅力ある授業づくり徹底事業の指定を受け、基礎・基本のプロジェクトチームを中心に全職員で学力向上に取り組んだ。今年度は、昨年度までの取組を基に、研究推進チームが中心となり、全職員で更なる研究を推進する。

○学力向上に向けた具体的な取組

・ 家庭学習の充実

「家庭学習の手引き」を作成し、家庭に配付する。家庭学習について共通理解する。

自主勉強での「手引き」の活用法を児童や家庭に伝える。

家庭での毎日の課題を必ず与え、連絡帳に毎日「○分以上学習」と書かせて意識を高める。

よい取組をしている自主勉強ノートを通信などで知らせ、児童や家庭への啓発活動にする。

各学年の家庭学習目標時間を設定し、5月・10月・1月に目標達成率を調査する。

・ モジュール学習

国語の力を付ける取組を行う。

読み聞かせ ペアトーク 漢字テスト 漢字再テスト 漢字練習 朝読書

ひらがなやカタカナ学習 視写 意味調べ プリント直し

・ 魅力ある授業づくり徹底事業により指導主事を招聘しての授業研究

・ フラッシュカードを活用するための利用研修，特別支援教育研修

・ 基礎・基本の定着

授業始めや帰りの会などでフラッシュカードを利用して復習する。

帰りの挨拶の後，一人ずつ問題を出す。

前学年や前学期の漢字や計算を課題として出す。音読と漢字か計算を毎日課題として出す。

各種の基礎学力アッププリントをがんばりカードに貼り，毎日の課題とするとともに，定期的にテストをする。

・ 自主勉強

「まちがえた」「わからない」から始める自主勉強の指導

・ 3年生以上で辞書引き指導

○現在までの取組の成果と課題

1 成果

- ・ 学習規律や家庭学習等に対する教職員の共通理解が図られた。
- ・ 基礎・基本に関しての取組を教職員が情報交換し合い、レポーティーを増やすことができた。
- ・ 家庭学習時間が伸び、家庭学習習慣が定着してきた。学年目標を達成した児童の割合が67%（10月）から86%（1月）に伸びた。
- ・ 自ら辞典で調べようとする児童の割合が78%（10月）から84.7%（1月）に伸びた。

2 課題

- ・ 間違えた問題をやり直す児童の割合は75%から75.9%と微増であった。できるようにするまでやり直す指導をより一層徹底したい。

○取組の継続・発展の要因

昨年度の取組により上記のような成果があったので、その取組をより確実なものにするために研究推進部を中心に「家庭学習の手引き」の配付の仕方を工夫したり、教員の意識化を図るためにチェックリストを利用したりしている。

また、28年度の市指定の研究発表に向けて、今年度からは今までの積み重ねの上に、本校の課題である「聞く力」に焦点化した取組を行うことにした。充実した学習活動が展開されるためには、その基盤となる「話すこと・聞くこと」の学習態度と学習をする上での約束が身につけていることが大切であると考えている。

○管理職・中核教員等のアクション

- ・ 総社市の学力向上推進事業の取組で、総社東中学校区の校長会が先進校視察を企画し、研究の中心となる教員を派遣するとともに、大学の先生の指導を受ける研修の機会を中学校区内で企画している。また、他の中学校区校長会に働きかけ、校内研修の支援を依頼する予定である。
- ・ 校内の研究推進部を中心に、職員が①言語活動部と②授業研究部に所属し、「話す・聞く」力を伸ばす実践に取り組む体制を作っている。
- ・ 月1回、学級ごとの取組の報告会を行い、学校全体で実践力向上を目指す予定である。

○その他の資料・写真等



ゲストティーチャーを招いた授業



研究授業の様子



フラッシュカードを用いた授業